



香川大介 「また ここへ還る」 フォレストアートフェスティバル 2023

2023 年 6 月。標高 3800 メートルに位置するインド、ラダック、マトー村の 5 エーカー(6100 坪)の大地に 6000 本の木を植え、その植樹地を芸術祭の会場とする「フォレストアートフェスティバル in ラダック 2023」が開催されました。日本からは香川大介、スギサキハルナの 2 人のアーティストを招聘、ラダックの新進気鋭のアーティスト 10 人もワークショップの形で参加し、植えられた木の苗たちを見守る形でアートが点在しました。

詳細はオフィシャルウェブサイトで→ https://wallartproject.net/special/forest-art-festival/

その時に植えたヤナギと野バラの苗の多くは、現地の人に見守られ、スクスクと育っています。

そんな中、昨年に引き続き、「フォレストアートフェスティバル in ラダック 2024」の開催が決定しました。

フォレストアートフェスティバル概要

主催する日本の NPO 法人「ウォールアートプロジェクト」による北インド、ヒマラヤのラダックでのアートプロジェクトのスタート(2014 年)から8年が過ぎ、パンデミックの悲劇を乗り越えたラダックの人々と私たちが協働して進めているのが、「社会彫刻」としての新しい形のアートプロジェクト「フォレストアートフェスティバル」です。

会場は、北インド、ヒマラヤの山々に囲まれたラダックのマトー村。マトーはラダック語で幸せを意味し、雪どけ水が豊富なため、標高 3800 メートルの高地にもかかわらず、伝統的な家の建材になる上質なヤナギの木が育つ地域としても知られています。

2023 年、そんな土地柄の村にヤナギの苗木と野バラの苗木約 6000 本を村人と日本のボランティアが協働して植樹。その植樹地を会場として現代アーティストたちが滞在制作により創り出すアートを点在させます。同時に、ラダックの学校の生徒やアーティストたちを招いてワークショップを開催します。

フォレストアートフェスティバル当日には、アート作品が一般公開され、それらと呼応するダンスや音楽演奏の青空公演、村の学校を会場としての映像上映なども企画。

世界の片隅から全世界へ向けて発信する国際的芸術祭です。

目的

アートの公開制作やワークショップを通じ、ラダックの子どもたち、アーティストと、自然との豊かな関わりを分かち合います。ヒマラヤの高山地帯にあるラダックでは、インド本土とも異なり、気候変動で氷河が後退し、地下水脈が変わり、遊牧や農業など代々続けてきた暮らしの転換を迫られています。「懐かしい未来」の地として世界から多くの観光客が訪れますが、その現状を知る人は多くはありません。

日本のアーティストたちはそこで生活しながら、ラダックという場をその体内に丸ごと取り込み、独自の視点を通して作品に昇華します。それら作品が公開される芸術祭は、ラダックのこと、地球環境の現状を広く伝える舞台装置ともなります。

また、質の高いアートの芸術祭として写真や映像で広く発信することで世界の注目を集め、ヒマラヤの地の問題を同じ地球で起きている事と捉える契機とします。

同時に、日本とラダックが交流を深め、お互いの現状を理解し、アイデンティティを認め合うことで、一過性ではない、長期的な交流を築きます。

開催概要

Forest Art Festival in Ladakh 2024

【一般公開日】2024年8月10日·11日

【アーティスト滞在公開制作期間】2024年7月21日~8月9日

【会場】インド ラダック連邦直轄領 レー マトー村(Matho Leh Ladakh, India)

【主催】特定非営利活動法人ウォールアートプロジェクト

【共催】ラダック自治山間開発会議レー Ladakh Autonomous Hill Development Council, Leh



NPO 法人ウォールアートプロジェクト概要

2009年に任意団体として設立。2011年に法人格取得。設立以来インド農村部及び日本の学校を舞台にした国際的芸術祭を18回開催。加えて、2023年にForest Art Festival としてアーティストの滞在制作作品及びワークショップで完成した作品を屋外に展示する事業をスタートした。日本、インド、ドイツ、フランスのアーティストを招聘し、これまでに壁画を中心とする絵画 66、インスタレーション 25、映像 8、パフォーマンス 6 が生み出されてきた。基本的に制作過程が公開され、ワークショップを介して子どもたちや一般の人々を取り込み作られた作品も多い。活動の目的はアートの力を伝え、アートを媒介にした交流を生み出し、アイデンティティ深化や国際理解に寄与することである。

公式ウェブサイト http://wallartproject.net

共催 ラダック自治山間開発会議レー (Ladakh Autonomous Hill Development Council, Leh) 概要

ラダック連邦直轄領のうちレー地区の行政を担う。地元民の選挙により選出された30人の評議員で構成される。 ヒマラヤの高山標高3000m以上にあるという地理的な特異性の中で培われてきた文化や伝統を保ちつつ、外 部との積極的な交流を通じて新しいものを吸収し、持続可能な社会の構築に取り組んでいる。未来のラダック を担う人材の育成に注力し、山岳エリアのモデルケースとなることを目指す。

フォレストアートフェスティバルに至る背景

ウォールアートプロジェクトはインド農村部の地域コミュニティと協働し学校を舞台にしたアートプロジェクトや国際カンファレンスを 14 回開催してきた。その内の 5 回をラダックで開催。日本人アーティストによる壁画制作デモンストレーションを子どもたちの目前で行いつつ、音楽家や服飾作家、映像作家、ダンサーによるワークショップにも取り組んできた。共催団体はそれら取り組みを評価し、子どもに加えラダックのアーティストとの交流と協働を一層深め、文化分野の発展への寄与を要望。伝統が大切にされてきたラダックだが気候変動や貨幣経済の浸透により変化せざるを得ない状況にある。文化の力によって新しい局面を見据える視点がもたらされることが望まれている。

取材・問い合わせ先

E メール info@wafes.net (おおくに・浜尾) 電話 090-2328-0230 (おおくに) 公式ウェブサイト http://wallartproject.net



招聘アーティスト

淺井裕介 (Yusuke Asai)

生きることを変化することと捉え、土、テープ、ホコリなど、あらゆる素材を用い絵を描くことを追求し続ける。現地の土を使う「泥絵」シリーズを世界各地制作してきた。2017年にラダックでの「アースアートプロジェクト」では、下記の作品を制作。今回の「フォレストアートフェスティバル」では、かねてから夢見ていた巨大地上絵に挑戦する。フェスティバルの期間限定で現れる布を用いた地上絵。「地図の上にピンを刺すように、ここに命があるよ、ということを示すような作品にしたい」と意気込む。



淺井裕介「泥絵:土の旅」2017 アースアートプロジェクト in ラダック 2017



招聘アーティスト

富松篤 (Atsushi Tomatsu)

木を削り、人物像を彫り出すことを続けてきた彫刻家・富松篤。数年前から流木の自然の姿に惹かれ、牡鹿半島の浜に移り住み、流木を素材として組み合わせ、「命」を宿らせることに挑み始めた。現在までに 18 体の等身大の生き物を制作。ラダックでは、やがてインダス川に流れ込む小川で流木を集め、植樹地を見守る存在としての立体作品を制作する。



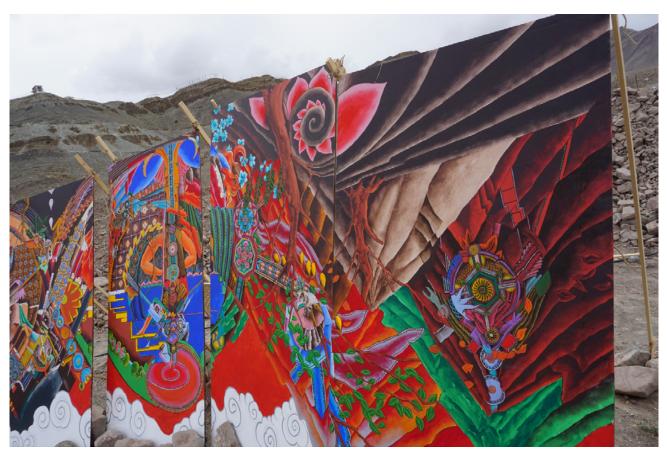




招聘アーティスト

香川大介 (画家)

「創る」ことを生活の一部とし、絵画を中心とした作品制作に取り組む。2023 年の「フォレストアートフェスティバル~プロローグ」では、約7mの作品「またここに還る」を8日間で制作し、喝采を浴びた。作品はマトー寺院の収蔵ととなったが「その時に描ききれなかったことがたくさんあるんです」と言う。今回は、前回滞在して見聞きしたことをベースにさらに体験を積み、全長16mほどの絵巻物作品を制作予定。





招聘アーティスト

スギサキハルナ (Haruna Sugisaki)

2023年の「フォレストアートフェスティバル〜プロローグ」ではラダックの土や顔料を用いて 5m の帆布に描く作品を二つ、ゲートを彩る作品も描いた。スギサキは、土、還元焼成・酸化焼成など、素材や焼成方法を使い分け、思い通りの作品を作る。今年は、ラダックの顔料や土のリサーチを深め、陶芸家の窯を借りて陶器作品群を制作。日本の陶芸を伝え、植樹地に現れる精霊たちを表現する。









ラダックの陶芸作家が、協働を楽しみに待っている。



ラダックのアーティスト

フォレストアートフェスティバル・プロローグにて香川大介、スギサキハルナが10名のアーティストを招き、ワークショップを行った。スギサキは、ラダックで集めた土や、灰、煤を顔料として用いる方法、また、持参した日本画にも使われる顔料の使い方をデモンストレーションで伝え、作品を描いた。香川大介は描く行為を人間の本能的な活動と捉え、自然物の形に着目し、テーマなど描く内容を決めずに描き始めることで面白い絵が描ける、と伝えた。作品は植樹地に展示された。

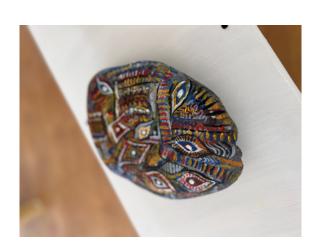
スギサキのワークショップで描かれた作品の一部





香川のワークショップの様子







招聘アーティスト

花田千絵子 (Chieko Hanada) ダンサー





パフォーマンス映像 https://youtu.be/_j87Hm6i7gc

北九州市出身で、6歳から 18歳までモダンバレエを黒田呆子に師事し、第4回北九州&アジア全国洋舞コンクールにて文部大臣賞受賞している花田千絵子。学生時代は韓国・朝鮮伝統芸能グループノリパン(名古屋)にて杖鼓と伝統舞踊を学び、さらに雲南芸術学院にて少数民族舞踊を学んできている。

ラダックには、現在も祭祀や催事ごとに村の男女がこぞって踊るラダックダンスが残っており、花田は、現地で村人たちからそれらのダンス学ぶことを渡航の目的の一つとしている。地元のダンスを体感することはその精神性を理解し、深い交流を促す。ラダックと日本の文化を、ダンスという原初的な身体表現を通じて理解し合うことを目的としている。それらを学んだ彼女が、芸術祭では、コンテンポラリーダンスとして披露する。また、日本で醸成された身体表現を伝えるべく、現地の子どもたちへのワークショップも予定している。



招聘アーティスト

RRyusuque ハンドパン奏者





演奏映像 https://youtu.be/CqY1Ryy2xIM

南米各地を巡る演奏の旅から帰国し、高知県の清流、仁淀川近くに移住し、その地をインスピレーションの源としているパーカッショニストである。現在もハンドパンを持ちながら、日本全国、世界で演奏活動をしている。

中でも、彼が手がけるハンドパンは、リズムと音律のある楽器であり、非常に繊細でありながら、奏でる人の人柄がそのまま反映されるような多様な表現力を持つ。

ラダックには、かつての日本の御神楽のように、村ごとに楽団があり、祭祀の折りには村人たちがパーカッションや笛を奏でる習慣がある。

RRyusuque は、それら地元の楽団の響きや、雄大なヒマラヤの風景とのコラボレーションを目指し、ハンドパン持参で渡航することが決まっている。

ラダックの土地と彼のハンドパンが出会った時、どのような化学変化が起きるのか。

芸術祭「フォレストアートフェスティバル」では、地元楽団とのコラボレーションはもちろん、その成果となる曲が作曲され披露される。

その曲は、日本とラダックの交流の証として、今後も繰り返し演奏されていく。



招聘アーティスト

ワィエダ兄弟 (Vayeda Brothers)

インド、マハラシュトラ州に暮らす先住民ワルリ族の画家。兄弟で制作するスタイルで、インド各地で制作した巨大な壁画が話題。ワルリ族のアイデンティティを深め、部族に伝わる神話や創世の物語をはじめ、現代社会を広く見透し、メッセージを込めた作品を描く。日本での滞在制作経験もあり、日本人アーティスト、ラダック人アーティストと交流を深めつつ、ラダックの文化、暮らしの奥底にあるものを描き出す。



「源のあらわれ」 ウォールアートフェスティバル ふくしま in 猪苗代 2024



「Veer -Statue of Ancestors- 先祖の像」



「Enchantment 魔法」

ラダック自治山間開発会議 農業・文化 幹部評議委員 スタンジン・チョスペル氏よりの招へい状

コッタスに入る、番ミスを引 STANZIN CHOSPHEL Executive Councillor (Agriculture) (Status of Deputy Minister)



역'국미정'국도'敎(도'축'쳁도하'따지' 콼리'왔지'統'미정| 회 LADAKH AUTONOMOUS HILL DEVELOPMENT COUNCIL, LEH

INVITATION

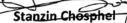
To Wall Art Project

Date: 28-11-2023 NO:- (AHD/EC(Agri)/05/23)

Ladakh Autonomous Hill Development Council, Leh invites Wall Art Project to conduct cultural workshops by Japanese artists for students and artists in Ladakh broadly. It is expected to create the opportunities to cultivate the creativities of children and stimulate the artists .As well as, the workshops and demonstrations by artists will enhance cultural exchanges between Japan and Ladakh.

I, as the Executive Councilor of Culture in Ladakh Autonomous Hill Development Council, Leh please to support the cultural activities, events which organized by Wall Art Project.

Sincerely,









参考資料

これまでのウォールアートプロジェクトの取り組みへの取材記事(日本経済新聞 2023 年 10 月 6 日)





取材・問い合わせ先

E メール info@wafes.net (おおくに・浜尾) 電話 090-2328-0230 (おおくに) 公式ウェブサイト http://wallartproject.net